

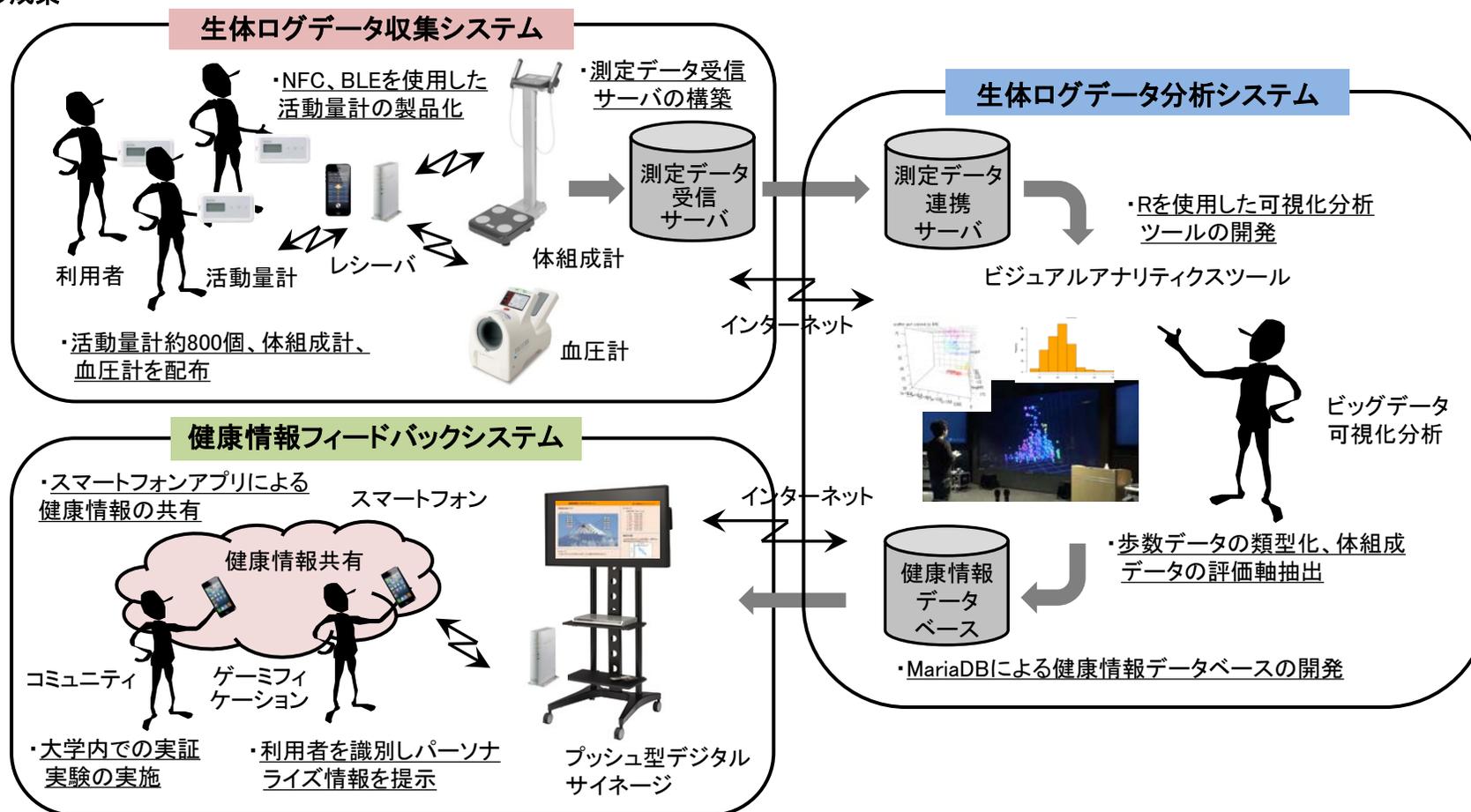
## 1. 研究課題・実施機関・研究開発期間・研究開発予算

- ◆課題名 : ソーシャル・ビッグデータ利活用・基盤技術の研究開発
- ◆個別課題名 : 課題A ソーシャル・ビッグデータ利活用アプリケーションの研究開発
- ◆副題 : ヘルスリテラシー向上のための生体ログデータ分析に基づく健康情報フィードバック
- ◆実施機関 : 学校法人慶應義塾大学、株式会社タニタヘルスリンク
- ◆研究開発期間 : 平成26年度～平成27年度(2年間)
- ◆研究開発予算 : 総額 40 百万円(平成27年度20百万円)

## 2. 研究開発の目標

本研究では、活動量を始めとする複数の生体ログデータを自動的に収集するシステム、蓄積された生体ログデータを可視化分析するシステム、分析結果をもとに健康情報を利用者にフィードバックするシステムの開発を行うことで、国民のヘルスリテラシーの向上を図ることを目標としている。

## 3. 研究開発の成果



#### 4. これまで得られた成果(特許出願や論文発表等)

	国内出願	外国出願	研究論文	その他研究発表	プレスリリース 報道	展示会	標準化提案
ヘルスリテラシー向上のための生体ログデータ分析に基づく健康情報フィードバックに関する研究開発	0 (0)	0 (0)	0 (0)	29 (22)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※成果数は累計件数、( )内は当該年度の件数です。

##### (1) 学会誌での特集企画

日本バーチャルリアリティ学会誌(Vol.20, No.2)において「ライフログと健康」の特集の企画を行い、本研究プロジェクトの成果に関して、「特集にあたって」(小木)、「ビッグ、ディープデータを使った健康管理」(吉澤)「2020年を見据えたスポーツデータのあり方」(神武)「ログデータと健康管理:ウェアラブルデバイスによる健康管理の可能性~身体活動を中心に~」(小熊)の解説論文を掲載した。

##### (2) 学会等におけるセッション企画

第6回横幹連合コンファレンスにおいて、「社会におけるヘルスリテラシー向上に向けた活動量・体組成等生体ログビッグデータの利活用」と題したセッションを企画し、プロジェクトのフレームワークから、ビジュアルアナリティクスツール、体組成データ分析、活動量データ分析、デジタルサイネージによる情報フィードバックなど6件の研究発表を行い、本研究プロジェクトの成果発表のいい機会となった。  
また科研費シンポジウム「統計学と機械学習における数理とモデリング」と連携し、主に体組成データ分析、活動量データ分析から得られた知見を中心に3件の研究発表を行い、本研究プロジェクトの成果を発表するとともに、有意義な議論の場となった。

#### 5. 今後の研究開発計画

今年度までの作業により、生体ログデータ収集システム、生体ログデータ分析システム、健康情報フィードバックシステムの各サブシステムの機能の開発、およびデータベースを介した各サブシステム間の連携のフレームワークが構築された。今後は、これらのシステムを実際に運用した実証実験を実施することで、各システムの問題点の抽出や、その改善を行っていくと同時に、収集されたデータの更なる分析を進めることで、健康に関するさまざまな知見の導出を進めていくことを目指している。また、実証実験の対象としては、慶應義塾大学内だけではなく、武雄市、長岡市等の協力を得ることで、地方の小学生、地方の高齢者等を含む多世代の幅広い利用者のデータを分析対象とし、各地域の生活と健康に関する特徴を明らかにすることで、地域ごと、個人ごとの健康指導情報を生成していくことを目指す。